

第 2 期宮城県歯と口腔の健康づくり基本計画の評価結果

- 達成指標全 28 項目について、下記の区分で評価、ライフステージごとに評価シートを作成した。

A	改善しており、目標を達成している
B	改善しているが、目標は達成していない
C	変わらない
D	悪化している
—	設定した指標又は把握方法が異なるため評価が困難

妊産婦期・乳幼児期(概ね5歳まで)

1 達成指標の評価

番号	達成指標項目	ベースライン値	目標値	実績値	評価
1	3歳児の一人平均むし歯本数	0.82本 (H27 地域保健健康増進事業報告)	0.58本以下	0.42本 (R3 地域保健健康増進事業報告)	A
2	3歳児におけるむし歯のない人の割合	77.1% (H27 地域保健健康増進事業報告)	90%以上	87.4% (R3 地域保健健康増進事業報告)	B
3	3歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある人の割合	79.5% (H27 幼児における歯科保健行動調査)	94%以上	65.9% (R4 幼児における歯科保健行動調査)	D
4	3歳児の間食として甘味食品・飲料を1日3回以上飲食する習慣を持つ人の割合	29.2% (H27 幼児における歯科保健行動調査)	15%以下	14.5% (R4 幼児における歯科保健行動調査)	A

(評価にあたっての考え方及び留意点)

「1」、「4」の達成指標については、改善しており、目標値を達成していることから、Aと評価する。
「2」の達成指標については、改善しているが、目標値を達成していないことから、Bと評価する。
「3」の達成指標については、実績値がベースライン値を下回っており、悪化していることから、Dと評価する。
なお、「3」の達成指標が悪化した要因として、新型コロナウイルス感染症の影響が考えられることに留意が必要である。
(参考) 令和2年度から令和4年度までの幼児健康診査時のフッ化物塗布について、市町村によっては、新型コロナウイルス感染症の影響で実施を見合わせたことがあった。

2 取組の状況 (H30~R4 宮城県歯科保健推進協議会報告「宮城県の歯科口腔保健に係る取組状況について」参照)

- ・宮城県歯科医師会と連携して妊産婦等を対象とした歯科口腔保健に関する普及啓発冊子を作成し、産科医院、助産院、市町村等の関係機関を通じ配布、妊婦と生まれてくる子どもの口腔衛生の向上に寄与するとともに、産科医院での歯科健診受診勧奨を促すよう取り組んだ。(H30~R4実施、R5も実施予定)
- ・宮城県歯科医師会と連携して、よい歯を保ち、心身の健康づくりに取り組んでいる親子を表彰し、家庭の中での歯の健康管理を通じた健やかな生活づくりを推進した。(H30~R4実施、R5も実施予定)
- ・幼児保育施設へのフッ化物洗口導入時の技術的支援・財政的支援に市町村と連携して取り組み、幼児保育施設へのフッ化物洗口普及と円滑かつ自律的な導入を推進した。(H30~R4実施、R5も実施予定)
- ・幼児保育施設職員・市町村母子保健・歯科保健担当者等を対象とした研修を実施し、口腔ケアに関する知識と技術の向上を図った。(H30・R1・R4実施、R5も実施予定、R2・R3は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

3 総評

達成指標については、4項目中2項目が「A」評価、1項目が「B」評価、1項目が「D」評価であった。一定の成果が見られる。

4 課題

フッ化物応用等の効果的なむし歯予防対策については、今後更に取り組んでいく必要がある。

5 今後の方向性

- ・市町村や歯科関係団体、医療機関等と連携し、口腔保健指導の充実により、むし歯予防が推進されるよう取り組むとともに、フッ化物応用等の効果的な歯科口腔保健対策の普及に努めていく。
- ・妊産婦やその家族に対する歯科口腔保健の啓発にも引き続き取り組んでいく。

学童期・思春期(概ね6歳から18歳まで)

1 達成指標の評価

番号	達成指標項目	ベースライン値	目標値	実績値	評価
5	12歳児の一人平均むし歯本数	1.2本 (H28 学校保健統計調査)	0.8本以下	0.9本 (R3 学校保健統計調査)	B
6	12歳児におけるむし歯のない人の割合	57.4% (H28 学校保健統計調査)	65%以上	64.6% (R3 学校保健統計調査)	B
7	12歳児における歯肉に異常のある人の割合	8.3% (H28 学校保健統計調査)	4.1%以下	6.2% (R3 学校保健統計調査)	B
8	12歳児における要精検児童・生徒の受診率	35.7% (H30 宮城県児童生徒の健康課題統計調査)	60%以上	37.8% (R4 宮城県児童生徒の健康課題統計調査)	C
9	過去1年間に歯科医院や学校で歯みがきの個別指導を受けた人の割合	44.3% (H28 宮城県児童生徒の健康課題統計調査)	63%以上	40.6% (R4 宮城県児童生徒の健康課題統計調査)	D
10	フッ化物配合歯みがき剤の使用割合	96.3% (H28 宮城県児童生徒の健康課題統計調査)	96.3%以上	84.9% (R4 宮城県児童生徒の健康課題統計調査)	D
11	学校における昼食後の歯みがき実施率	59.5% (H30 宮城県児童生徒の健康課題統計調査)	78%以上	27.8% (R4 宮城県児童生徒の健康課題統計調査)	D

(評価にあたっての考え方及び留意点)

「5」、「6」、「7」の達成指標については、改善しているが、目標値を達成していないことから、Bと評価する。
 「8」の達成指標については、ベースライン値と実績値がほとんど変わらない(目標値まで24.3ポイント増が必要なところ、2.1ポイント増)ことから、Cと評価する。
 「9」、「10」、「11」の達成指標については、実績値がベースライン値を下回っており、悪化していることからDと評価する。
 なお、「11」の達成指標が悪化した要因として、新型コロナウイルス感染症の影響が考えられることに留意が必要である。
 (参考)新型コロナウイルス感染症の影響で、学校における昼食後の歯みがきを見合わせる学校があった。

2 取組の状況 (H30~R4 宮城県歯科保健推進協議会報告「宮城県の歯科口腔保健に係る取組状況について」参照)

- ・小・中学校へのフッ化物洗口導入時の技術的支援・財政的支援に市町村と連携して取り組み、小・中学校へのフッ化物洗口普及と円滑かつ自律的な導入を推進した。
(R3~R4実施、R5も実施予定)
- ・宮城県歯科医師会や教育委員会と連携し、小・中学校の教職員(主として保健主事、養護教諭等)を対象とした研修を実施し、口腔ケアに関する知識と技術の向上を図った。(H30・R1・R3・R4実施、R5も実施予定、R2は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)
- ・主に高校生を対象に、歯間清掃用具等を配布、その使用方法に関する情報提供を行うことにより、その使用体験を通じた歯肉炎対策に関する啓発を行い、効果的なセルフケアの定着を図った(R2~R4、R5も実施予定)

3 総評

達成指標については、7項目中3項目が「B」評価、1項目が「C」評価、3項目が「D」評価であった。目標達成に向けた更なる取組が必要である。

4 課題

フッ化物応用等の効果的なむし歯予防対策や歯肉炎対策などの歯科口腔保健教育や指導に、今後より一層取り組んでいく必要がある。

5 今後の方向性

歯科口腔保健の推進に取組むための関係機関の連携体制を強化し、学校や教育関係者、家庭、行政、歯科医療機関等、関係機関が一体となって歯と口腔の健康づくりに取り組む体制整備を図っていく。

青年期(概ね19歳から39歳まで)

1 達成指標の評価

番号	達成指標項目	ベースライン値	目標値	実績値	評価
12	かかりつけ歯科医を持つ割合	49.1% (H28 県民健康・栄養調査)	70%以上	51.6% (R4 県民健康・栄養調査)	C
13	定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合	25.5% (H28 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	30%以上	40.3% (R4 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	A
14	歯間清掃用具を使用する人の割合	38.2% (H28 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	60%以上	65.9% (R4 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	A
15	喫煙で歯周病にかかりやすくなると思う人の割合	59.9% (H28 県民健康・栄養調査)	100%	58.8% (R4 県民健康・栄養調査)	D

(評価にあたっての考え方及び留意点)

「13」、「14」の達成指標については、改善しており、目標値を達成していることから、Aと評価する。
 「12」の達成指標については、ベースライン値と実績値がほとんど変わらない(目標値まで20.9ポイント増が必要なところ、2.5ポイント増)ことから、Cと評価する。
 「15」の達成指標については、実績値がベースライン値を下回っており、悪化していることからDと評価する。

2 取組の状況 (H30~R4 宮城県歯科保健推進協議会報告「宮城県の歯科口腔保健に係る取組状況について」参照)

- ・宮城県歯科医師会と連携し事業所の健康づくり担当者等を対象とした講話を実施し、職域での歯と口腔の健康づくりの重要性を啓発、事業所での歯科健康管理の実施状況の向上を図った。また、働き盛り世代の歯周病対策に関する啓発パンフレットやポスターなどの啓発資材を作成・配布し、歯周病予防対策の強化に取り組んだ。(H30~R4実施、R5も実施予定)
- ・メタボリックシンドローム予防対策等と連携した啓発を行い、歯と口腔の健康づくりは全身の健康維持につながり、歯周病対策をはじめとした歯科保健対策が重要であることを広く周知した。(R2・R4実施、R5も予定、R3は新型コロナウイルスの影響で中止)
- ・スマートみやぎ健民会議会員団体を対象にアンケート調査を実施し、優良事例を取り入れた啓発リーフレットの作成・配布を行うことで事業所の取組の促進を図った。(R1実施)
- ・R1実施のスマートみやぎ健民会議会員団体へのアンケート調査を再度実施し、事業所の取組状況の進捗を確認する予定。(R5予定)

3 総評

達成指標については、4項目中2項目が「A」評価、1項目が「C」評価、1項目が「D」評価であった。一定の成果がみられる。

4 課題

- ・壮年期以降の歯周病予防のため、定期的な歯科受診の推進については、引き続き取り組んでいく必要がある。
- ・喫煙が歯と口腔の健康に影響することの啓発についても、今後より一層取り組んでいく必要がある。

5 今後の方向性

- ・定期的な歯科受診による歯周病等の歯周疾患の早期発見や予防対策、歯周病と喫煙等の関連に関する啓発等について今後更に取り組んでいく。
- ・歯科受診等の口腔の健康の保持・増進に対する取り組みなど、職場環境の改善を支援していく他、家庭・職場等の社会環境が生活習慣に及ぼす影響の重要性についても認識を高めていく。

壮年期(概ね40歳から64歳まで)

1 達成指標の評価

番号	達成指標項目	ベースライン値	目標値	実績値	評価
16	かかりつけ歯科医を持つ割合	56.6% (H28 県民健康・栄養調査)	70%以上	67.5% (R4 県民健康・栄養調査)	B
17	定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合	34.1% (H28 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	45%以上	41.7% (R4 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	B
18	歯間清掃用具を使用する人の割合	53.8% (H28 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	70%以上	66.4% (R4 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	B
19	進行した歯周病の人の割合	63.7% (H28 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	40%以下	67.6% (R4 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	D
20	60歳で24本以上歯を保持する割合	54.3% (H28 県民健康・栄養調査)	70%以上	58.9% (R4 県民健康・栄養調査)	B
21	喫煙で歯周病にかかりやすくなると思う人の割合	50.2% (H28 県民健康・栄養調査)	100%	45.6% (R4 県民健康・栄養調査)	D

(評価にあたっての考え方及び留意点)

「16」、「17」、「18」、「20」の達成指標については、改善しているが、目標値を達成していないことから、Bと評価する。
「19」、「21」の達成指標については、実績値がベースライン値を下回っており、悪化していることからDと評価する。

2 取組の状況 (H30～R4 宮城県歯科保健推進協議会報告「宮城県の歯科口腔保健に係る取組状況について」参照)

- ・宮城県歯科医師会と連携し事業所の健康づくり担当者等を対象とした講話を実施し、職域での歯と口腔の健康づくりの重要性を啓発、事業所での歯科健康管理の実施状況の向上を図った。また、働き盛り世代の歯周病対策に関する啓発パンフレットやポスターなどの啓発資材を作成・配布し、歯周病予防対策の強化に取り組んだ。(H30～R4実施、R5も実施予定)
- ・メタボリックシンドローム予防対策等と連携した啓発を行い、歯と口腔の健康づくりは全身の健康維持につながり、長く健康に働き続けるためには、歯周病対策をはじめとした歯科保健対策が重要であることを広く周知した。(R2・R4実施、R5も予定、R3は新型コロナウイルスの影響で中止)
- ・スマートみやぎ健民会議会員団体を対象にアンケート調査を実施し、優良事例を取り入れた啓発リーフレットの作成・配布を行うことで事業所の取組の促進を図った。(R1実施)
- ・R1実施のスマートみやぎ健民会議会員団体へのアンケート調査を再度実施し、事業所の取組状況の進捗を確認する予定。(R5予定)
- ・生活習慣病等の健康課題を多く抱える運輸・運送業従事者に向け、歯と口腔の健康づくりが全身の健康維持に繋がること等を啓発するパンフレットを新たに作成・配布、50歳以上の働き盛り世代をターゲットに、それぞれの働き方や環境において抱える課題に即した啓発に取り組んだ。(R4実施)

3 総評

達成指標については、6項目中4項目が「B」評価であり、2項目が「D」評価であった。目標達成に向けた更なる取組が必要である。

4 課題

- ・歯周病等の歯周疾患を持つ人の割合が増加し、歯の喪失が増え始める年代であり、定期的な歯科受診の推進については、引き続き取り組んでいく必要がある。
- ・喫煙が歯と口腔の健康に影響することの啓発についても、今後より一層取り組んでいく必要がある。

5 今後の方向性

- ・定期的な歯科受診による歯周病等の歯周疾患の早期発見や予防対策、歯周病と喫煙等の関連に関する啓発等について今後更に取り組んでいく。
- ・歯科受診等の口腔の健康の保持・増進に対する取り組みなど、職場環境の改善を支援していく他、家庭・職場等の社会環境が生活習慣に及ぼす影響の重要性についても認識を高めていく。

高齢期(概ね65歳以上)

1 達成指標の評価

番号	達成指標項目	ベースライン値	目標値	実績値	評価
22	80歳で20本以上歯を保持する割合	39.8% (H28 県民健康・栄養調査)	50%以上	44.1% (R4 県民健康・栄養調査)	B
23	かかりつけ歯科医を持つ割合	69.4% (H28 県民健康・栄養調査)	72%以上	70.1% (R4 県民健康・栄養調査)	B
24	定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合	45.0% (H28 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	60%以上	53.9% (R4 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	B
25	進行した歯周病の人の割合	63.3% (H28 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	55%以下	69.6% (R4 宮城県歯と口腔の健康実態調査)	D
26	喫煙で歯周病にかかりやすくなると思う人の割合	41.4% (H28 県民健康・栄養調査)	100%	36.7% (R4 県民健康・栄養調査)	D
27	介護老人福祉施設での定期的な歯科健診実施率	39.1% (H27 老人福祉施設及び障害福祉サービス事業所における歯と口腔の健康づくり取組状況調査)	50%以上	33.6% (R4 老人福祉施設及び障害福祉サービス事業所における歯と口腔の健康づくり取組状況調査)	D

(評価にあたっての考え方及び留意点)

「22」、「23」、「24」の達成指標については、改善しているが、目標値を達成していないことから、Bと評価する。
 「25」、「26」、「27」の達成指標については、実績値がベースライン値を下回っており、悪化していることからDと評価する。
 なお、「27」の達成指標が悪化した要因として、新型コロナウイルス感染症の影響が考えられることに留意が必要である。
 (参考) 新型コロナウイルス感染症の影響で、歯科検診の実施等外部の立ち入りを制限する施設があった。

2 取組の状況 (H30～R4 宮城県歯科保健推進協議会報告「宮城県の歯科口腔保健に係る取組状況について」参照)

- ・宮城県歯科医師会と連携し、要介護者の口腔ケアを担う歯科医師、歯科衛生士及び介護等に従事する職員等への研修を行い、要介護者の口腔ケアに関する知識と技術の向上を促進した。(H30・R1・R3・R4実施、R5も予定、R2は新型コロナウイルスの影響で中止)
- ・宮城県歯科医師会と連携し、口腔内に問題を抱えている在宅の要介護者及びその家族からの口腔ケアに関する相談対応や、在宅歯科医療機関の紹介及び在宅歯科医療に対応する歯科医療機関の増加と資質の向上に寄与するための研修等を行い、地域における在宅歯科医療の推進を図った。(H30～R4実施、R5も実施予定)
- ・在宅の要介護者等に対する診療窓口機能を整備するため、宮城県歯科医師会が設置する既存の窓口への歯科専門職の配置を支援し、在宅の歯科医療提供体制の整備に寄与した。(H30～R4実施、R5も実施予定)

3 総評

達成指標については、6項目中3項目が「B」評価、3項目が「D」評価であった。目標達成に向けた更なる取組が必要である。

4 課題

- ・フレイルや進行した歯周病、歯の喪失などの問題が深刻化する年代であり、定期的に歯科受診の推進により適切な予防措置を受けることを促進する必要がある。
- ・喫煙が歯と口腔の健康に影響することの啓発についても、今後より一層取り組んでいく必要がある。
- ・施設での口腔ケアについては、新型コロナウイルスの影響を受けた時期があり、今後更に十分な口腔ケアを受ける機会の確保に取り組んでいく必要がある。

5 今後の方向性

- ・定期的な歯科受診による歯周病等の歯周疾患対策や、オーラルフレイル対策、歯周病と喫煙等の関連に関する啓発等について今後更に取り組んでいく。
- ・在宅で療養している要介護者への歯科保健・医療の提供体制整備に向け、歯科関係団体と連携して取り組んでいくとともに、施設における口腔ケアの取組の充実について、今後より一層取り組んで行く。

障害児・者

1 達成指標の評価

番号	達成指標項目	ベースライン値	目標値	実績値	評価
28	障害児・者入所施設での定期的な歯科検診実施率	70.6% (H27 老人福祉施設及び障害福祉サービス事業所における歯と口腔の健康づくり取組状況調査)	90%以上	62.5% (R4 老人福祉施設及び障害福祉サービス事業所における歯と口腔の健康づくり取組状況調査)	D

(評価にあたっての考え方及び留意点)

「28」の達成指標については、実績値がベースライン値を下回っており、悪化していることからDと評価する。
なお、「28」の達成指標が悪化した要因として、新型コロナウイルス感染症の影響が考えられることに留意が必要である。
(参考) 新型コロナウイルス感染症の影響で、歯科検診の実施等外部の立ち入りを制限する施設があった。

2 取組の状況 (H30～R4 宮城県歯科保健推進協議会報告「宮城県の歯科口腔保健に係る取組状況について」参照)

- ・宮城県歯科医師会と連携して、障害児・者の口腔ケアを担う歯科医師、歯科衛生士及び障害児・者の保護者や施設職員等への研修を行い、障害児・者の口腔ケアに関する知識と技術の向上を促進した。(H30・R1・R3・R4実施、R5も実施予定、R2は新型コロナウイルスの影響で中止)
- ・宮城県歯科医師会と連携して口腔内に問題を抱えている在宅の障害児・者及びその家族からの口腔ケアに関する相談対応や、在宅歯科医療機関の紹介及び在宅歯科医療に対応する歯科医療機関の増加と資質の向上に寄与するための研修等を行い、地域における在宅歯科医療の推進を図った。(H30～R4実施、R5も実施予定)
- ・在宅の障害児・者等に対する診療窓口機能を整備するため、宮城県歯科医師会が設置する既存の窓口への歯科専門職の配置を支援し、在宅の歯科医療提供体制の整備に寄与した。(H30～R4実施、R5も実施予定)
- ・宮城県歯科医師会と連携し、障害児・者に対する歯科保健・医療の提供体制整備に向けた人材育成や相談受入体制の構築に向けた取り組みを支援した。(H30～R4実施、R5も実施予定)
- ・宮城県歯科衛生士会と連携して障害児親子歯みがき教室を実施し、障害児・者自身と保護者による適切なセルフケアの意識啓発と技術習得を図った。(H30・R1・R4実施、R5も実施予定、R2、R3は新型コロナウイルスの影響で中止)

3 総評

達成指標については、「D」評価であった。目標達成に向けた更なる取組が必要である。

4 課題

施設での口腔ケアについては、新型コロナウイルスの影響を受けた時期があり、今後更に十分な口腔ケアを受ける機会の確保に取り組んでいく必要がある。

5 今後の方向性

障害児・者への歯科保健・医療の提供体制整備に向け、歯科関係団体と連携して取り組んでいくとともに、施設における口腔ケアの取組の充実について、今後より一層取り組んで行く。